先人たちの物語 シンリッオルシペ

監修　佐々木 利和

名工 シタエパレ（江戸末期ごろ）

シタエパレは江戸時代の終わりに近いころ、択捉島のナイホに暮らしていた男の人で、見事な木ぼりを作りました。松浦武四郎という和人の紀行家がこのことを書き残し、今でもシタエパレの作品には大勢のファンがいます。

得意としたのは、お盆やおわん、さじ、ひしゃくなど。これらに一本のマキリ（ナイフ）だけできれいな模様をほりました。植物の葉やつる、花などと、海の波模様、うろこ模様を組み合わせたデザインがよく見られます。模様だけでなく、一つ一つの道具の形が繊細で使いやすく仕上げられ、美しいのです。

江戸時代には、アイヌ民族の木ぼりが本州へも広まっていきました。北海道に来た和人がお土産に買うほか、江戸でも熱心に買い集めるファンのために、茶たく（茶わんの台）やハンガー、糸巻きなどがよく作られました。シタエパレも注文があれば、筆立てや筆のじく、マキリのさやなどを作りました。「禅鎮」（座禅をするとき頭に乗せたり、耳にかける道具）なども残されています。

当時の択捉島のくらしは、平和とは言えませんでした。高田屋という商人が木綿や米を運んでくると、アイヌ民族もそれらを喜んで取り入れました。ところが、のちに別の商人が来ると、人々を強制的に働かせ、いろいろひどいことをするようになりました。

言うことを聞かないと暴力をふるい、食べ物をあたえず、虐待しました。過酷な生活で病人が増え、2千人いた択捉島のアイヌ民族は、数十年の間に439人まで減ってしまいました。

そんな中、シタエパレは、ほこりを守るため、和人からはなれた所に住み、和人のものを受け取らず、言うことも聞きませんでした。ときどき魚をとるほかは、一心にほり物にうちこんでいました。その勇敢さに和人である武四郎も感銘を受けたのでした。

（敬称略）

三つの名前 持つ人も

シタエパレがくらした時代は、日本とロシアの国境がはっきり決まっていませんでした。択捉島は今でいう「北方領土」にあたる島で、千島列島（知床とカムチャツカ半島の間にあるたくさんの島）の南のはしに近いところです。

択捉島までは、厚岸や根室など道東のアイヌ民族が猟に出かけました。ウルップ島より北のアイヌ民族は、島から島へ移動をしながら魚や海の動物をとり、カムチャツカのイテリメン民族などと交流してくらしていました。

江戸時代の中ごろになると、ロシア人と和人がこれらの島々にやってきました。ロシア人はアイヌ民族にロシア語の名前をつけロシア正教（キリスト教の一派）を信じさせようとします。和人も対抗し、アイヌ民族に日本語名をつけさせました。ですから、人によってはアイヌ語、ロシア語、日本語と三つの名前を持つことになりました。

明治時代になると、日本が千島列島を、ロシアが樺太（サハリン）を領土とし、アイヌの世界は国境で区切られました。千島列島のアイヌ民族は色丹島に集められ、第2次大戦後は、ほとんどの人が北海道や本州へ移りました。

今でも、先祖が千島列島にくらしていたというアイヌ民族が各地にくらしています。

ミンタラ

アイヌ語で「広場」の意味

文　北原 次郎太　　絵　小笠原 小夜

弁論大会に３回出場

平良 咲季さん（小6）
＝釧路市阿寒町

―こんにちは、イランカラプテ。お祝いの席でキーボードをひいていましたね。大勢の人の前でよくひくんですか。

5歳からピアノを習っています。大勢の前でひくのは発表会くらいです。小学校でドラムを教わったのも楽しかったです。

―とても落ち着いていましたね。だれの曲が好きですか。

クラシックではショパンが好きです。

―歌も上手ですよね。

楽器ほどじゃないけど、得意と言えば得意です。学校でも音楽の授業が一番好きです。勉強以外だと、部活のバレーボールが楽しいです。

―家では何をして過ごしますか。

テレビを少し見て、宿題したり、ピアノの練習をしたり。

―アイヌ語はだれが教えてくれますか。

日高管内様似町の大野先生という人が阿寒に教えに来てくれます。弁論大会に3回出ました。アイヌ語の勉強は楽しいです。毎年冬になると、おどりを教わります。

―将来はどんなことをしたいですか。

一つあって、一つはピアノとか音楽の仕事。もう一つは英語の先生です。

―読者のみなさんにメッセージを。

阿寒湖に来て、アイヌのことを知ってほしいです。

◇

「ヘカチ　マッネカチ」は「男の子　女の子」の意味です。若いアイヌの人にインタビューするコーナーです。

ヘカチ マッネカチ

読んでみよう

今回は小さな「プ」「ク」の読み方です。これらはそれぞれ子音で終わる音を表します。プは子音のｐ、クはｋです。子音については、前回（４月22日）のこのコーナーで説明しました。

「チェプ（魚）」の発音は、ゆっくり「チェップ」というつもりで、プを言う前に、くちびるをとじたところで止めます。

「ユク（動物のシカ）」は、「ゆっくり」とを、ゆっくり言いながら「く」を言う直前に止めます。この時、舌の先はどこにもつかず、舌の付け根が息の通り道をふさいでいます。

同じく子音で終わる音に、小さい「ツ」があります。日本語にもある文字ですが、例えばサッカーというときの「ッ」はｋ、「カッパ」というときはｐの音が出ています。アイヌ語で言葉の終わりに「ッ」と書くときは、子音のｔを表します。

「ペッ」は「ペット」とゆっくり言いながら、「ト」を言う直前で止めます。舌先が前歯の裏側から歯ぐきのあたりに付いて、息の通り道をふさぐ感じです。

「読んでみよう」の内容を、どうしん電子版の動画コーナーを見ながら練習してみましょう。出演は札幌大学「ウレシパクラブ」のメンバーと、札幌・真駒内桜山小学校４年の河村龍平君です。スマートフォンを持っている人は、ＱＲコードから読みこんでください。